

4 評価の結果について

各事業の評価結果は、7ページ以降の各事業評価シートに掲載しています。

主な内容は、業績測定指標の実績等から事業の現況を示し、目標値との比較等を行うことによって事業の進捗状況を把握したうえで、課題や今後の方向性等を示したものになります。

依然として厳しい財政状況が続き、効率的な資源配分が求められる中、3か年実施計画の担当課や予算編成の担当課は、この評価結果を事業のあり方や方向性を総合的に判断していくための重要な判断材料の一つとして活用していきます。

一方で、事業担当課は、計画の策定段階から事業の目標や成果を考えて業績測定指標を設定し、その指標によって事業の進捗状況を管理していくことになるため、目標達成を意識した事業を進めることになり、事業担当者の意識改革や事業の見直しを図れます。

5 今後の事業評価制度について

本市が目指す事業展開は、計画、予算、評価という各過程がトータルで機能するような体系を整備し、PDCAサイクルを循環させていくことです。

そのためには、各事業に設定する業績測定指標の妥当性、変動の反映性、明瞭性を確保し、さらに市を取り巻く社会経済環境や市の財政状況等を分析したうえで、市民ニーズと実現性のバランスがとれた目標値を設定し、その目標に向かってどのように事業が進捗しているのか、定期的の実績を測定していくことが必要です。

事業評価では、この実績と目標値との比較等により事業の進捗状況を把握したうえで、現状の課題、今後の方向性等を明らかにします。それが、PDCAをうまく循環していくための一つのツールとして機能することになります。

そのためにも、現行の評価方法に固執することなく、評価シートの構成や評価手順等を研究し、本市の実情に合った評価制度の確立に努めていきます。

併せて、業績測定指標の浸透化によるPDCAサイクル全体の質の向上や、職員の意識改革の推進等により、評価の実効性の維持、向上に努めていきます。